



バプテスト心身障害児(者)を守る会
愛の手を

第206号

発行責任者
 社会福祉法人 バプテスト心身
 障害児(者)を守る会
 重症心身障害施設 久山療育園
 重症児者医療センター
 理事長 宮崎信義
 編集責任者 中村晴光
 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
 ☎(092)976-2281
 FAX (092)976-2172

「新年のご挨拶」

理事長 宮崎信義

鐘が告げられています。

久山療育園における感染対策では、
 感染対策を5段階(レベル)に設定し
 ています。日本国内では、2020
 年4月7日にパンデミック(世界的流
 行)の「緊急事態宣言」が7都府県(東
 京・大阪・名古屋・千葉・埼玉・兵庫・
 福岡)に発令(第一波)されました。久
 山療育園でも2020年6月以来、感
 染レベル3を基本に対応して来まし
 たが、感染状況に応じて月に2〜3回
 の感染対策委員会で対策レベルを3
 から2の範囲で対応して来ました。病棟
 や通所・外来では短期入所・面会・療
 育活動の制限を継続し、感染状況によ
 って部分的に緩和を行っています。他
 院受診などの外出後の48時間隔離や、
 短期入所時の感染確認検査、ボラン
 ティアや学生受け入れ制限等でご協力
 頂いています。

2022年を迎えました。今年も重症心身障害児(者)やご家族、職員、そして支えて下さった方々にとって良き年となりますようにお祈りし、ご挨拶申し上げます。この2年間は緊張感を持ちつつ感染が終息することを願いつつ参りました。年頭に当たっても、新型コロナウイルス感染に対峙し「重症心身障害児(者)と共に在る」皆様と共に健康が保たれ豊かな日々でありますように心して行きたいと思っております。

感染の危機に対峙して

2021年7月から新型コロナウイルス感染症の第5波となり、職員対象の感染確認に有用なPCR検査を実施してきましたが、8月の5回目も229名全員が陰性でした。8月20日の福岡県の感染状況(第5波)は8月20日1日の1,253人がピークで、以降は漸減していきます。しかし、欧米など世界では感染者数が増加している地域もあり、1月7日の発表では感染者が急増し、第6波の襲来に警

「世の試練」と聖書

2021年11月26日に新たな変異ウイルス「オミクロン株」が発見されたことで第六波が危惧されますが、このような危機にあっても私たちは主の憐れみと救いを信じ、聖書に聴きつつ対処して参りたいと思います。使徒パウロは、コリントの信徒への手紙Ⅱの4章7〜9節で、「わたしたちは、この

ような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかにするために、わたした

ちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない」と語ります。人はこの世にある限り、苦難・患難・苦悩は、生の現実として生じます。またコリントの信徒への手紙Ⅰの10章13節に「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはないはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」と使徒パウロは述べています。試練もこの主のご計画にある限り、耐えられないものはないと語っています。苦難そのものが私たちにあって本當の脅威なのではなく、時に危機はチャンスでさえあると言われる。その苦難や試練によって、真理や真実により近づくことさえあると思っております。

年頭に当たっては、明るく希望に満ちたご挨拶を申し上げて参りましたが、一方で「重症心身障害児(者)と共に在る」久山療育園の責務を覚えながら、あえて危機や苦難においても希望を失うことがないように心したいと思います。重症心身障害児(者)と皆様の健康を祈りつつ、良き年であることをお祈り致します。

理念と展望

「電子カルテの導入と久山療育園の事業計画」

理事長 宮崎 信義

「愛の手を」春号では、次年度の事業計画と展望について述べてきました。喫緊の課題としては、何といっても「情報次期システム」「電子カルテの運用」と、「新型コロナウイルス感染症対策」です。この点を中心に述べて参りたいと思います。久山療育園重症児者医療療育センターでも2016年度頃から、情報管理委員会を中心に情報「次期システム」及び「電子カルテ」の導入を検討して来ましたが、重症心身障害関連学会(シンポジウムやワークショップ、業者説明会資料)を検討しつつ拙速とならないように、また先行した重症心身障害施設にもお尋ねしながら2018年度の情報管理委員会で実際の協議を始めました。電子カルテ・次期システム導入の検討の過程から、2019年4月16日に指名入札を行い、2019年4月6月上旬にかけて電子カルテ・次期システム導入検討会を数回実施し、2020年8月3日

から電子カルテの運用を開始しました。電子カルテの検討課題として、①電子カルテが重症心身障害施設に適正か(利便性省力化、適正性、生活性)、②診療・看護・介護への支援が原則、③職員の業務支援。機器のスペースと配置、④情報漏洩のリスク回避、⑤各部署間と職間の意思統一等でした。検討した結果、半年間の職員研修期間を経て、運用開始しました。以来、約1年余りの体験を通して気付いたことを述べたいと思います。

電子カルテを導入して気付いたこととして「実施者」「体験者」「初心者」として

紙カルテから電子カルテへの移行の体験から、マニユアルからデジタルへの変化、利用者への把握と情報伝達、多職種との連絡・協議・連携等について運用前後において、切れ目が生じないように考察し実施しました。特に、「利用者との距離感」を覚えることに

ついて、電子カルテで記録性は向上しましたが、少なくとも自分に関しては充足感が乏しいと感じることがしばしばありました。職員(特に医療職)は距離感(隣接感)に不足がなにか、あるとすればどうすれば補えるかを聞きたいと思えます。現在のところ、口頭での伝達や協議だけでなく、電子カルテの「MEMO」や「指示」の活用で補うことが普及することが考えられます。

情報管理者や電子カルテの運用に関する専門家の存在の必要性については、導入前から望まれていたことですが、適任者が与えられたことは幸いでした。その結果、各職種や病棟・通所・外来に来てもらい、正しい運用方法を指導することが可能となり、今後は現場とも協議しながら各職域や各職種での検討会での電子カルテの活用と拡大を検討して行きたい。

電子カルテ導入と久山療育園の創立理念

①設立の目的から…在宅及び入所重症児者の必要から電子カルテの機能を活用した診療計画・療育計画と運営を向

上することが、有用な利用者及び職員への還元となることが期待される。

②運営基本方針から…新たに電子カルテの機能を活用して、重症児(者)と共に生き支え合う保護者会及びミットレーベン・ネットワーク、地域や諸教会との協働を維持向上していく。

③療育基本方針から…久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのため、それぞれ最善の職協的協力を進めることよって、その専門的領域の働きを全うしなければならぬ。久山療育園の療育の再確認と医療マインドに基づく生命の尊厳を支える「QOL(生活の質・生命の質・人生の質)重視。電子カルテの運用が開始されて以来、療育活動や身近な看護が電子カルテの不足分を補完しています。

新型コロナウイルス感染症対策「三密」を避けることから学んだ電子カルテの活用

新型コロナウイルス(COVID-19)は、中国武漢

市付近で2019年11月に発生が確認された、SARS関連コロナウイルスに属するコロナウイルスです。2020年3月30日には日本でも感染者が急増し、「密閉」「密集」「密接」を防ぐ勧告が発出されました。以後、施設内でも月に2回以上の感染対策委員会を実施し、施設内のクラスター発生を懸命に防止して来ましたが。日本においても2021年4月から第4波が生じ、4月25日には緊急事態宣言(3回目)が発出され、院内感染対策委員会でも5月17日から院内感染対策レベル(5段階)をレベル4に強化しました。そして、久山療育園における今後の感染対策と電子カルテ活用の可能性については以下の取り組みがなされています。①施設内では、タブレット等を活用して、健康状態(画像や検査結果)・生活活動をお伝えする。②短期入所利用について、PCR検査や遺伝子診断(ID, NOW)で陰性の確認を行う。③新型コロナウイルスワクチン接種を推進する(始どの入所利用者や職員は2回接種が完了。12月28日から3回目を開始しました。)

特に、クラスター発生防止の観点から「密閉」「密集」「密接」を防ぐ勧告を受けて感染対策の強化を実施しながら、一方で感染終息時の逆説的な学びを考慮しています。「密閉」については、感染終息後には場所を共有することを回復していく。「密集」については、感染終息後には共に集まることの意義を再認識したと。「密接」については、感染終息後にはコミュニケーションを大切にしていきたいと示されました。

おわりに

この数年間は、重症心身障害事業の向上を考えつつ、一方では新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う感染防止対策や健康保持を考えつつ、健康被害だけでなく、絆が希薄化することへの懸念について考えさせられて参りました。この危機を訓練としてだけではなく、「重症児者と共に」という理念の向上に活かさせていければ幸いです。

病気のからだから人の 第10回

「注意したいくすりのはなし」

センター長／理事 岩 永 知 秋

60歳の還暦に近づくころから、中学校や高校の同窓会は

病気とくすりの話に花が咲くようになりました。「トニー

ヨーで〇〇を飲んでい

か、「血圧には〇〇がよいそ

うだ」とか。「俺なんか5種類

以上のくすりを飲んでるぞ。」

などという豪の者もいたりし

て、くすり談議に花が咲きま

す。健康食品やトクホなど、

健康に関するものにはくすり

のほかにもいろいろあります

ね。テレビや新聞などの報道

はもちろん、最近ではインタ

ーネットで簡単に病気や治療

のことなどを調べることがで

い評価は難しいのが現実です。

■高齢者とくすり：ポリファーマシー（多剤服用）

高齢者とは65歳以上と定義

されますが、高齢者がくすり

を服用するうえで、注意す

べきことがいくつもありま

す。たとえば、きちんと処方

されたくすりを決められた1

日の時間で服用していないこ

とが多いことがわかっていま

す。私の外来(週に1回国立病

院機構で外来診療を続けてい

ますが)でも、受診されるた

び「おくすりが増えていま

す」と言われる方がいます。「き

の器用さ、視力や聴力などが次第に衰えてくるので、これらのこともくすりの服用を不

正確にします。さらには、く

すりが体の中で効果を発揮し

た後、主に肝臓で無害なもの

に変えて、主として尿に排泄

されます(これを代謝といいま

す)が、この代謝の働きも年と

ともに低下します。以上のこ

とを総合すると、高齢者への

くすりの処方対策は可能な限

り種類を少なく、かつ簡単な

服用(服用回数を1日1回のも

のに減らすなど)が好ましいの

ですが、それとは反対のこと、

すなわちたくさん種類のく

すりを服用している実態が日

常では起こりがちです。これ

をポリファーマシー、つまり

がらくすりの種類が多くなる

とのみ間違えが増え、副作用

の可能性も増えますよね。ま

た、くすりの一部にはお互い

同士の相互関係で、効果が落

ちたり、逆に作用が高まった

り、副作用が出やすくなった

りという現象もおきます。現

在のいろいろな症状の一部が、

実はくすりによって引き起こ

されていることもあるので

す。「一包化」といって、複数

の飲み薬を一つの薬包の中に

まとめて処方するとのみ忘れ

は減りますが、これにはそれ

ぞれの薬の量の調整が難しい

といった短所もあります。ま

た、病気によっては複数の医

療機関や診療科にかかり、足

し算のようにくすりの数が増

えることもあります。どこか

の病院でこれらの処方全体を

把握し、処方されたくすりの

適正化を図る必要があります

が、誰がどこでその調整を図

るかなど考えると、そう簡単

なことではありません。しか

し、患者さんやご家族とも

に病院主治医と開業医の先生、

薬局が連携して、その適正化

に努める必要があります。

■風邪に抗生物質は不要

風邪(感冒)とはウイルスの気道感染により、上気道症状(くしゃみ、鼻水、鼻づまり)や下気道症状(せき、たん)を生じるものです。いわゆる「風邪ウイルス」による感染症ですね。コロナウイルスも今回問題になっている新型コロナウィルスが登場する前は、4種類のコロナウイルスがかぜウィルスとして知られていました。そのほかにもライノウィルス、RSウイルスなど風邪ウィルスはいろいろです。ウィルスは「細菌」に比べればはるかに小さな病原体です。細菌は普通の顕微鏡(光学顕微鏡)といえます)でその姿を見ることができですが、ウィルスは普通の顕微鏡で見ることにはできず、電子顕微鏡と呼ばれる特殊な顕微鏡が必要となります。また、ウィルスは細菌と異なり、自分だけで生きていくことはできず、ヒトや動物のからだの細胞の中で増えていきます。

ウィルスによる病気は特定の病気を除けば、実は人間のからだから持っている免疫の力によって自然に治る性質のものが多いのです。実際、風邪

も多少こじれたりしても自然に治りますよね。逆に、ウィルスを殺す効果を持つくすり剤も実はあまり多くありません。細菌による感染症に用いる、たくさん種類がある抗生物質も、ウィルスには無力です。風邪においてもこれが当てはまり、普通の風邪を起すウィルスに効く抗生物質はありません。したがって、たとえ抗生物質が処方されても、風邪を起すウィルスには効果がありません。

ところが日本では風邪に抗生物質が処方されることが多いのです。そして、患者さん側でも抗生物質の処方を希望される方が多いのも事実です。もちろん、呼吸器の病気などもともと病気を持っている方は、風邪から続発する急な悪化を予防するために抗生物質を飲んでいただくことはあるのですが、基礎疾患のない方には基本的に抗生物質は不要です。

■おまけの話:健康に良い(?)食品とは

広告でよく見かける健康食品やトクホなどどのようなものでしょうか。別表を見な

から解説を読み進めてください。それにしてもいつも思うのですが、これらの名称がなんと紛らわしいことか!

「健康食品」は機能性表示ができません。どうということかという「健康に良い」「健康に効果がある」「健康の増進に役立つ」などの表現はできませんが、「〇〇に効く」と示すことはできません。なぜなら「健康食品」には国の審査や許可制度がないからです。国がきちんとした評価をしていないことになります。

これに対して「保健機能食品」は機能性表示を行うことができるものです。つまり「〇〇に効く」と宣伝できます。「健康食品」に比べると、この食品の一部は少しは評価されていることになります。「保健機能食品」には3つあります。

まず1つめは「特定保健用食品」いわゆる「トクホ」ですが、これはある程度の科学的根拠があることが認められるものです。ただし、保険診療で使用するくすり剤が厳格な審査と許可が必要であることに比べれば、くすりと食品の違いがあるにせよ、試験される症例数もはるかに少なく、その

研究論文の質も高くありません。国が審査を行い、消費者庁長官が許可します。

2つめは「機能性表示食品」です。これはメーカーが独自の科学的根拠に基づいて機能性を表示するものです。しかしその科学的根拠には審査がありません。消費者庁への届け出は必要ですが、許可を得る必要はありません。

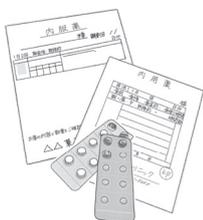
3つめは「栄養機能食品」で、ビタミンやミネラルなどです。これはもっと簡単に、国への届け出や審査も不要です。

■終わりに

常々私は思っているのですが、ヒトの医療はまず人を「信じる」ことから始まる(医療者と患者さんとの信頼関係)のです。一方、医療は科学の一端を担うものでもあります。科学ではまず、従来の常識やこれまでの経験則を「疑う」ことから始まります。信じることから始まる医療と、疑うことから始まる科学(医学)、2つは正反対のようですが実は表裏一体を成しています。

		科学的根拠	国の審査	国の許可	国への届け出
保健機能食品 (機能性表示ができる)	特定保健用食品	○	○	○	○
	機能性表示食品	○(?)	×	×	○
	栄養機能食品	×	×	×	×
健康食品 (機能性表示ができない)		×	×	×	×

(参考:宮坂昌之、定岡恵、免疫と病の科学、ブルーバックス、講談社)



第52回公開講座について

研修研究委員会委員長／ひかり棟看護師長 藤島 信也

2021年11月8日に第52回公開講座を開催しました。公開講座は「コロナ禍から学ぶ感染対策」というテーマで国立病院機構福岡東医療センター、感染管理認定看護師、加治大輔先生に講演して頂きました。



今年度も前年度と同様に講

演のみとし、公開講座を全体的に縮小して開催しました。2019年より新型コロナウイルスによる感染症が猛威を振るう中、今年のテーマは感染症に関連した内容が望ましいと、研修委員会で準備を進めました。

今年度は他施設から25名の

参加がありました。感染対策で参加者を制限しているものの、参加者が徐々に減ってきているので、公開講座をコロナ禍で、どのように実施していくか改めて検討する必要がありますと感じました。

公開講座は「感染症とは」や、感染対策について(隔離予防策など)の基本的な事から福岡東医療センターおよび重症心身障害児者病棟での対策についてなど病棟の現状の話まで幅広く話して頂きました。特に隔離予防策の手洗いや手指消毒、マスク、エプロン、手袋の着脱など日頃、実践している事を改めて考える機会になりました。手洗い、手指消毒は、どのタイミングで実施するか、マスク、エプロン、手袋は、どのような順番で着脱するかなど、正しく使わないと適切な効果が得られないと感じると同時に、日頃から正しい着脱の訓練を繰り返さないと実践が難しいと感じました。感染予防のた

めに人と人の距離を常に開ける事やマスクの着用は症状がなくても当たり前になるなど、これまでとは異なる生活様式が日常になるという話は印象的でした。以前は、利用者さんは職員の様々な表情を見て、その表情から様々な事を感じるの、不必要に表情が隠れる事は避けた方がいいなと思っていました。コロナ禍になって、マスクを着用するのが常識になった現在、感染対策のみならず、利用者などのように関わっていくか考える必要があると思いました。

福岡東医療センター(いずみ病棟)における重症心身障害児者病棟の感染対策の話聞き感染防止行動が困難な事や集団生活、バリア機能が破綻しやすい、医療器具に関連した感染など重症心身障害児者の特徴においても、いかに利用者が感染を受けやすい状態にあるのか改めて感じました。体調不良の職員や新型コロナウイルスに曝露した職員への

対応は大きな違いはありませんでしたが、感染対策に関して感染管理専従の職員が情報の集約や対応の検討に関わっている点は、当センターと異なる所と感じました。当センターは感染委員会、感染委員がセンター内の対策に関わるので、今後は感染に対して、もっと深い知識を持った感染管理者が中心に感染に向き合えれば、より徹底した対策ができると思います。利用者家族の面会制限に関して、当センターと同様に感染状況に応じて、調整し、面会制限により感染が起こっていない現状と家族が面会できない事で精神的な支えが無くなる事やQOLの向上に影響を及ぼすなどの弊害があるという話を聞き同じような問題を抱えていると感じました。また隔離に関しても、複数の利用者が隔離になった場合、限られた部屋の中で、どのように隔離していくかなど、ハード面にも限界があり、その中でも、できる限りの対策を実施していくなど、当センターと同様の課題もありました。今後も新型コロナウイルス対策は続いていきます。利用者の安全を



守りつつ、どうQOLを維持していくか考えていく必要があると今回の公開講座に参加して感じました。





2021年久山療育園クリスマス





今年も昨年に引き続きコロナ禍の影響を受けたクリスマスとなりました。

例年は、来場される多くの教員やボランティアの方々、クリスマスをお祝いするため、11月になると有志職員で聖歌隊が組織され、地域交流ホールからは指導や演奏の先生方とともに練習に励む歌声が聴こえてきますが、今年も10月に開催されたクリスマス実行委員会、感染防止対策を最優先する観点から、聖歌隊の編成とキヤンドルサービスを中止することが決定されました。

久山療育園クリスマスを楽しみにされていたボランティアの方々をはじめ関係者の皆さま方には『重症児施設の感染対策の重要性』をご理解いただき、止む無く出席をお断りせざるを得ませんでした。

クリスマス礼拝当日は讃美歌と聖書朗読でイエス様のご降誕を祝し、宮崎理事長よりクリスマスメッセージが伝えられ、保護者会役員、理事・監事の皆さま、そして、新入職員と共にクリスマスのお祝いをすることができました。

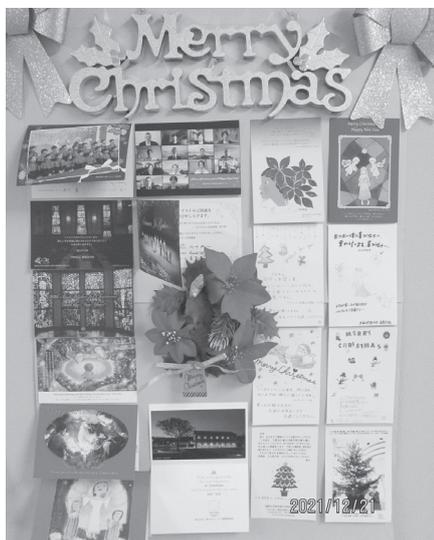


クリスマスは場所・形式を問わず毎年訪れます。ご存じの方も多いと思います。1914年12月、ヨーロッパは第一次世界大戦の激戦の最中でした。ベルギー、オランダ、フランスに跨るフランドル地方ではイギリス軍とドイツ軍が激しい攻防を続けていました。12月24日のクリスマスイブの日も戦争は続いていました。この日だけは様子が違いました。イブの夜にドイツ軍の塹壕から『サイレントナイト』と『ホーリーナイト』と歌声が聞こえてきます。それはドイツ語の『きよしこの夜』でした。イギリス軍は突然起こったこの現象に最初は混乱し、塹壕から顔を出し、ライフルを構えました。すると、ドイツ人はこちらを向いて手を振ってくるだけで攻撃してくる様子は有りません。そして、見えるのは光

り輝くクリスマスツリーでした。イギリス軍もドイツ軍の歌声に呼応して一緒に英語の『きよしこの夜』を歌い始めました。

来年はどのような年になるか先は読めませんが、それでもクリスマスは訪れます。来年こそはマスクを外し多くの方々笑顔でお祝いできることを願っています。

(事務部法人係 横溝正生)



たくさんのメッセージ
ありがとうございました



めぐみ棟より

みんなでクリスマス会☆

12月15日天気も良く、暖かい日差しが差し込む中でめぐみ棟のクリスマス会を二部構成で行いました。

一部での礼拝では、選ばれた3名の利用者さん達は、白い衣装を身に着けて少し緊張気味の表情も見られる中キヤンドルサービスが始まり宮崎理事長のクリスマスのお言葉を頂きみんなでクリスマスソングを歌いお祝いしました。



楽しみの二部(祝会)では色々な職種の職員による出し物の動画をみんなで見ました。知っている職員が出てくると楽しそうな笑い声が聞こえてきていましたよ。新人職員による出し物では、利用者さんも鈴をもって『あわてんぼうの

サンタクロース』の曲に合わせて合奏を一緒に楽しい時間を過ごしました。



最後はやっぱりサンタクロース!! 鈴の音と一緒に岩永センター長がサンタさんになってめぐみ棟にプレゼントを持ってきてくれました!! 利用者さんは嬉しそうに一つずつ手渡しでプレゼントをもらいとっても嬉しそうでしたよ☆

このコロナ禍ですが今年最後の行事クリスマス会にみんなが参加できて利用者さんも職員も楽しめたのではないかと思います。また来年も元気に楽しいクリスマス会を行いたいと思っています。

(めぐみ棟 保育士 田崎加奈子)

秋のイベント(めぐみ..オーストラリアゾーン)

めぐみ棟ではオーストラリアの世界を再現しました。

入口を入るとカンガルーが利用者さんと職員をお出迎え。カンガルーの赤ちゃんを手に取り抱っこをし、笑顔になる利用者さんや職員と一緒に「こんにちは」と挨拶をする利用者さんの姿が見られました。カンガルーの横を見るとユーカーリの木の上にコアラがいます。そこでは、ボタンを押すと普段なかなか聞くことのないコアラの鳴き声を聞けます。珍しいコアラの鳴き声に皆さん驚いた表情を浮かべていました。

奥に進むと、少し怖そうなワニに水をあげることが出来ます。ワニに近づき水に見立てたスズランテープを直接手であげる方や、少し離れた所でマジックハンドを使用し水をあげる方など、それぞれの楽しみ方でワニと触れ合いました。その他にもオーストラリアで有名なエアーズロックの写真や、ハンモックにぶら下がっているナマケモノもいます。



サークル活動で利用者さんがつくった、カラフルな鳥や誕生会の際に皆さんで作った動物が飾られており、利用者さんと職員の会話も広がりオーストラリアの世界も満喫できました。

(めぐみ棟 保育士 山田梨愛)



ひかり棟より

「生きもののキングダム in 久山」

10月27日水曜日 待ちに待った秋イベント「いきものキングダム in 久山」の開催です。ひかり棟の利用者さん達は、何日も前からどんな催しがあるのか、お話ししながら待っていました。会場に入るのは密にならないように1ユニットずつ、順番が来たらアナウンスで呼ばれて、かわいい新人レンジャーさんの説明を聞きチケットを貰って冒険の始まりです!!会場までの道で生きものを見つけながらゲートを目指します。ゲートを潜ると「オーストラリアの世界」カンガルーやナマケモノを触って癒されたり、コアラの鳴き声を聞いたり、ワニにドキドキしながら水をかけたり、それぞれ雄大な景色の中、笑顔で楽しむことができました。



次ゲートを潜ると「海の世界」青くキラキラした世界に海の生き物達がいっぱいいます。大きなリュウグウノツカイには、みんな驚いていましたね。壁に映った海の中に入り込んで写真撮っている方もいました。クラゲの中に入り込んでクラゲ傘をもって記念撮影をしたり、サンゴ礁にいる魚を眺めたり、ビンの中を泳いでいる白熊やペンギンを手を持ちたり、興味深く見ている姿が多く見られましたよ。

最後はランタンを持って「夜の世界・ナイトサファリ」です。少しドキドキしながら怖いかな?静かに近づけば大丈夫だよ!などの声が聞こえてきます。静かに夜の動物たちを探して観察します。ライオンやぞう・孔雀もいたね。大きなクモもいたよ。みんなと話しながら前に進み出口へ、外に出ると可愛いレンジャーさんからクイズが出されます。よく話を聞いていた皆さんは大正解でした。お部屋につくまでが冒険です。気を付けながら楽しい思い出を話しながらお部屋に帰りました。

感染症の流行のため今年も外出できなかった利用者さん達がどこかに出かけた気分になれるように考えた今回の秋のイベント。皆さんの驚いた声や楽しそうな笑い声、大きな目を開けて動物を見る様子。そしてたくさんさんの笑顔を見ることができて、とても嬉しかったです。今度はいつ開催されるかは、お楽しみに!!

(ひかり棟 保育士 島津静香)



「ひかり棟 入所者クリスマス」

12月15日(水) 待ちに待った入所者クリスマスです。この日のためにお洋服を選び、当日は何があるかなど、何日も前から楽しみにしていました。午前中は礼拝がありました。ライトを手にみんなで讃美歌を歌い、聖書の言葉を聞き、宮崎理事長のお話を聞きまし



た。皆さん真剣だけど朗らかな表情でお話を聞いていました。

礼拝が終わると昼食です。今日はクリスマスメニューにケーキバイキングご馳走を前にみんなニコニコ笑顔でした。

おなか一杯になった後は 第2部「祝会」です。礼拝で神様からの祝福をいただき、お昼からは色々な方から出し物のプレゼントをいただきました。スタツフ渾身の出し物の動画にみんな大笑い。一気に楽しい雰囲気になります。可愛い託児さんたちの動画は自然と優しい表情にさせてくれます。最後の出し物は今年の新人さんの生出演での出し物、「クリスマスだよ!!」「全員集合!!」の掛け声が始まります。ひげダンスをしたのちにトーンチャイムで演奏をしてくれました。可愛い新人さんの出し物にほっこり楽しい気分になりましたね。

出し物が終わるとサンタさんが来てくれました。なんと今年はサンタ子ちゃんも!!たくさんのプレゼントを持ってみなさんに届けてくれました。受け取ったみなさんはとてもうれしそうに笑っていました。今年もたくさんの笑顔でクリスマスを過ごしました。

(ひかり棟 保育士 島津静香)

重症者ホームひさやまより

「ハロウィンお菓子パーティー」

10月24日、少し早いハロウィンお菓子パーティーをしました。お昼ご飯を済ませていざ、お菓子パーティーの開始。

まずは、みんなで写真撮影。被り物をつけたり、顔や洋服にお化粧やカボチャのシールを貼って笑顔で「ハイ、チーズ」。

写真のあとは、ケーキの争奪戦。喧嘩をしないように、番号が書かれたお菓子探しゲーム!番号によって食べられるケーキの種類が違い、チョコレートケーキ、レアチーズケーキ、ティラミスの3種類の中から2種類のケーキを食べました。

ほかにも、炭酸のジュースやコーヒー等の飲み物やサクサクしたスナック菓子、チョコレート等の甘いお菓子等、入居者の方が好きなお菓子をお腹いっぱい好きなだけ食べ、楽しい時間を過ごしました。

(重症者ホーム 介護福祉士 前田香織)



通所で頑張っています

「ナイトサファリ」

今年、病棟の「秋のイベント」生き物キングダム」にも通所も参加する事になりました。通所は、ホール後室の飾り付けを担当し、ナイトサファリに変身させました。暗幕や黒のビニールで覆われた壁、そして電気を消して暗くなった室内を、懐中電灯やランプを持ってゆつくりと見て回ります。入ってすぐの頭の上には大きな蛇が、右側には子どもを抱っこした毛糸でふわふわのマンドリルやブラックライトで照らされた自慢の羽を持つ孔雀が、みんなを待っていました。



ドキドキしながら進んでいくと、今にも飛びかかりそうな虎や百獣の王ライオンが目を見せられています。後ろを振り向くと、仲良く過ごしている両親とかわいい子どもの象が集まっています。キラキラ光る池の傍には、お尻を向けたシマウマが立っています。上を見上げると、背の高いキリンがいます。木にとまっている鳥も、みんなを見つめています。迫力あるナイトサファリ、皆さん、ドキドキ・ワクワクしながら見て頂けたのではないのでしょうか。この動物たちの素材は、通所の活動の中で、利用者の方と作っていききました。力を合わせたナイトサファリ、大成功でした。

(通所 保育士 寺田智加子)

「クリスマス活動」

今年度の通園のクリスマス活動は「HISAYAMA CITY クリスマスマーケット」と題し、博多のクリスマスマーケットを模したものを設定し、12月17日から23日まで開催しました。

プロジェクトでプロジェクトでプロジェクションマッピングを撮影し、通所おなじみのトトロもクリスマス仕様でドレスアップ♪

そして、利用者様にはスタッフ手作りのドレスとスーツを準備して撮影スポットをご用意しました。

会場のメインのフォトスポットには、これも手作りのキラキラのペットボトルツリーが！中から光を当てることで、幻想的に輝くツリーに、点灯式では利用者様たちもニコニコキラキラの表情で見入っていました。

最後はプレゼントの手作りキャンドルを手に入れたよ、皆さん嬉しそうに会場をあとにしていきましたよ。メリークリスマス♪

(通所 介護福祉士 濱田彩子)



外来
療育

宇宙
そら
宙

「宇宙修了式」

11月25日に修了式を行いました。リハビリスタッフの協力もあり、歩行器をかわいくアレンジしたものに嬉しそうに乗って登場…。



会場からは拍手や紙吹雪のお出迎えがあり、カメラを向ける保護者にも笑顔を見せていました。その後も一人でパイプ椅子に座って、声掛けに『はい』と答えたり、お祝いメッセージをくれたスタッフに深くお辞儀をしたりと、堂々とした姿に驚きと共に成長を感じる場面が多くありました。



(通所 保育士 汐田美賀)

また、いつもは恥ずかしそうにしていたお友だちも、寂しさを感じていたのか式の間は椅子の近くに集まってきて紙吹雪で遊ぶなど、少しでも近くに居たい様子がありました。

今年度の宇宙は少人数で、コロナ感染対策などによりお友だちとの関わりが十分に出来ない部分もありました。でも、少人数だからこそ一人一人のペースにゆっくりと向き合う事も出来、良い時間を過ごす事が出来ました。修了式はその子の次へのステップアップとして、スタッフみんなで祝いし、笑顔で送り出しています。12月末にはもう一人修了を迎え、本当に寂しくなります。でもリハビリに來られますので、また元気な姿が見られる事に楽しみを持っていきます。皆様も見かけたら声を掛けてください。

ミットレーベン・ネットワークからのお知らせ

年末恒例となったミットレーベン・ネットワークの街頭募金が、12月23日(木)から26日(日)までの4日間、天神の西日本新聞社(博多大丸)前で行われました。

例年だと7日間ですが、本年はコロナ禍のために短縮した日程となりました。昨年の3月から年末の街頭募金を含めて1年6カ月間、街頭募金ができない期間が続きました。そこで、この間のブランクが影響して、「久山」が忘れられていないかとの危惧がありました。さらに10月に再開した時が8000円で、11月は7000円と募金額が低調であったことが、それに追い打ちをかけていました。コロナが人と人との関係を変えてしまい、その間をさらに広げ、他者への関心が薄れているのではないかと感じたのです。他者のことに気を配る余裕がなくなったのだろうかと心配しました。また感染への恐怖から募金箱に接近することを避ける心理も働いているのかとも考えました。そういう意味で、私たちとしては、それらを確認するためにも、今年は是非この年末募金を実施したいと強く念願して迎えた街頭募金でありました。

しかし蓋を開けてみると、それらの危惧は杞憂に終わり、多くの募金が与えられました。1日目は一番いい天気であったが、2日目は降雨のため途中で中止になりました。3日目は風が強くて寒い天気でした。4日目は日曜日で教会員の参加が困難なため、職員・保護者が中心でした。大変に寒くて粉雪が舞う中での募金になりました。4日間を通して感じたのは、「久山」は忘れられていないということです。私たちが50年間以上、ここで種を蒔いて来たことは市民の間に定着しており、決して枯れてはいなかったということを改めて確認することができました。

また、募金に参加した人たちも、自分にできることを工夫して参加してくれたように思います。教会や個人で普段からお金を少しずつ貯めて、それを持ってきてくれた人、幼い子供の服装に工夫をして参加してくれた人、温かい飲み物を用意してくれた人、バッテリーが機能せず、代わりにの機材を準備してくれた人、等々です。ビル街で大変に寒い中、防寒着を身に纏い、それでも震えながら2時間を頑張ってくれました。このような多くの「共に生きる」に感謝して、ご報告いたします。

	募金額(円)	参加人数(人)
12/23(木)	105,808	25
24(金)	35,375	12
25(土)	79,049	27
26(日)	58,853	18
合計	279,085	82

※集計の後に伊都教会から30,100円の献金がありました。

(重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」
会長 伊原幹治)



藤田 英彦

敵対する者に狼狽させられないでいる様子を聞かせてほしい。

〔ピリピ人への手紙第1章28節〕

前号『愛の手を』205号は「創立45年の記念号」の感があり、巻頭言で3人の牧師が、東福岡教会の集会で祈られた紹介が、当時の教会員の方からあり、宮崎理事長から『創立45年の今を考へる』と題し、「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならぬ」という「基本方針」の確認の下、「久山療育園は、病院であり、学校であり、家庭である。われわれは、対象者を、技術論的ではなく、全人的にとらえる。…と語られ、その編集後記に当たる「歩行器」にあった。流石、宮崎理事長の明確な

管理指導下、このコロナ禍にも拘わらず全員陰性とは、素晴らしいと一人感心させられた。また岩永センター長の「気管支と鼻の切っても切れない関係」を、このコロナ禍の時期に適切に説明頂いたことは、私事であるが、耳と鼻に心配を持つ私にとって、大変嬉しいことだった。また長年に亘り法人事務局担当課長、広報出版委員長としてご苦勞された馬原哲治氏に、「本当にご苦勞様でした」と感謝したい。

原稿の締め切り日に、恐れていたオミクロン感染者が東京で発見された。周囲の感染を含め、医療関係、政府マスコミの報道は、深刻である。この際、声を大きくして叫びたい。患者を始め周囲の人間として苦しみ、忍耐、克服への希望が大きく語られるべきではないか。

先にも紹介したが、元国立感染症研究所室長で『人類と感染症の歴史』の著者加茂重孝氏は「中世の欧州ではペストがきっかけで、近世へと向かう変化が起きた」と指摘する。「ローマ教皇が祈り、神父が治療してもペストが治まらず、人々の信頼を

なくしたことが、その後の宗教改革につながった。奴隷的な身分だった農奴の人口が激減したことで、荘園主が雇う賃金労働制への移行も起きた」。医療も近代化したという。加茂氏は、更に『中世に起きた1世紀分の変化が、コロナ禍の中では数年で起こるかもしれない』とみる。

『リモートワークが急速に広がり製造業では自動ロボット化が進む。産業構造はがらりと変わるだろう。政治的な面では自国優先主義がさらに加速するのではないかと話す。

新型コロナウイルスはグローバル化を背景に、急速に世界に広がった。今のところ静まる気配は見られない。今回の流行は21世紀的なパンデミックと言える。

コロナピア大学ニバー教授の言葉を紹介する。

神よ、変えることのできないものを静穩に受け入れる力を与えてください。

変えるべきものを変える勇氣を、

そして、変えられないものと変えるべきものを区別する賢さを与えてください。

一日一日を生き、この時をつねに喜びをもって受け入れ、困難は平穩への道として受け入れさせてください。

これまでの私の考え方を捨て、イエス・キリストがされたように、この罪深い世界をそのままに受け入れさせてください。

あなたのご計画にこの身を委ねれば、あなたが全てを正しくされることを信じています。

そして、この人生が小さくとも幸福なものとなり、天国のあなたのもとで永遠の幸福を得ると知っています。

アーメン



防災への取り組み

「防災の取り組み」

近年における自然災害は、2016年熊本地震や2018年北海道胆振東部地震など大規模且つ広範囲にわたるケースが多く、地震による福祉施設での被害も増えています。

風水害においても、2018年9月の台風21号による近畿地方での被害は甚大でした。九州においては、2020年7月の熊本豪雨において、死者・行方不明者67名、家屋の全壊・半壊浸水など7412件の住家被害が発生しました。

火災では、2013年2月に長崎市の高齢者のグループホームにおいて死者5名、負傷者7名の被害を伴う火災が発生するなど、福祉施設が被害を受けるケースが相次いでいます。

このような状況の中で、災害をはじめとする予期せぬトラブルが発生した際に冷静な判断が難しくなり、敏速な対処が出来ず、二次災害を招く恐れもあります。そのような事態を回避するために、地震・水害・火災等の発生時に、人命と財産を守るための危機対応を記した「防災マニュアル」を導入しておくことは重要です。

久山療育園における2021年度の防災対策は、「防災マニュアル」の見直し改定を行いながら、初

動訓練 全体避難訓練(火災・水害・地震)、夜間避難訓練等の計画を立て、実際の災害を想定しながらの訓練を行いました。



職員に対しての訓練については、久山療育園は児童福祉法の関係で、毎月避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施するようになっています。

入所や通所・外来で来られる利用者の命と生活を守るために職員一人一人が訓練に取り組んでいます。

避難訓練については、初動を中心とした訓練を行い、利用者を1秒でも早く避難させる訓練を行っています。その他、夜間の少ない職員数での避難訓練等も行っています。

消火訓練については、実際に消火器を使い操作方法や消化の訓練を行っています。また、消火栓の操作方法等も学んでいます。



通報訓練については、自動通報メールを利用し職員にセンターで火災が発生したことを伝達しています。メールを見た職員は、応援に駆け付けるようになっています。

年1回災害対策訓練を実施しています。大規模地震を想定し、実際に施設内を停電にし、停電時での看護・療育の仕方、食事の提供の仕方などを訓練しています。

園内託児所においても、利用児童の命を守るために避難訓練、消火訓練に加え不審者対応についての訓練も計画して行っています。

災害用品の備蓄についても、入所者の非常食や紙おむつ、職員の非常食や介助物品等3日間の確保を行っています。



私たちは、久山療育園を利用しているお一人お一人が、安全で豊かな生活を送ることが出来るよう職員一人一人が訓練を重ね、実際に災害が起きた時に敏速に対応できるよう今後も訓練に励んでいきます。

(防災委員長 小脇 勇)





新入職員の皆さん

2021年度はコロナ禍にあっても春以降に新しい仲間6名をお迎えしました。感謝とともにご紹介します。



①小長 恵

(看護師／ひかり棟)

- ②利用者様やご家族から信頼される看護師を目指し、頑張ります。
- ③長所…真面目。
- 短所…緊張しやすい。
- ④いつでも困っていることがあります。ご相談下さい。



①柴田 玲子

(保育補助／託児所)

- ②1歩1歩成長する子ども達に寄り添えるよう頑張ります。
- ③長所…短所…困っている人がいれば自分の事より人の事を優先してしまう。長所でもあり短所です。
- ④子ども達にとって母親のような存在でありたい。

- ①名前・職名・部門配置
- ②久山療育園で働くことについての抱負
- ③長所・短所
- ④利用者の方や家族とどのように関わりたいですか？



①木下 晶子

(作業療法士／リハビリティーション課)

- ②利用者さんについて沢山知り、役立つように頑張ります。
- ③長所…周りに流されません。
- 短所…最近物忘れが増えました。
- ④利用者さんやご家族と楽しく、体も楽になるようにリハビリをしていきます。



①宜保 深里

(看護師／ひかり棟)

- ②今までの経験を活かし、一生懸命がんばります。
- ③長所…よく笑います。
- 短所…緊張しやすい。
- ④話を親身に聞いて利用者さんらしさを見いだせる看護、関わりがしたいです。



①吉田 沙織

(理学療法士／リハビリティーション課)

- ②利用者さんの笑顔を引き出せるように頑張りたいです。
- ③長所…忍耐力がある。
- 短所…マイペース。
- ④生活がより楽しくなるための手助けができるようになります。



①鍋山 泰三

(事務部長代理／事務部)

- ②障がい者施設での働きは初めてですが、一日も早く皆様のお役に立てますよう、務めてまいります。
- ③長所…何事も前向きに捉えていくところです。
- 短所…早起きが苦手です。
- ④しっかりと耳を傾け、一緒に考えていくことを大切にしたいと思います。



ご協力ありがとうございました

(2021年9月1日～11月30日) 敬称略

【法人】

一般献金

飯田節子、磯寄佳果、岩本留理子、大坪敬子、岡田安弘、岡本好枝、岡山バプテスト教会、金子純雄、(株)アンチータ、(株)ロジテム九州、加来徳子、来久の会、栗田昌直、古賀成、志満秀武、てい子、後藤香織、小松澤一枝、西戸崎キリスト教会、才藤千津子、酒井みどり、坂口繁和、西南学院高等学校生徒会、西南学院バプテスト教会姉妹会、第一保険(株)、立石有梨佳、塚原千鶴子、塚本吉興、つくしんぼうの会、西加代子、濱崎カツエ、久山療育園手作品売上、福岡聖書キリスト教会、福田さとみ、福田靖、豊前キリスト教会、船津丸泰、松岡順之介、村津俊博、室蘭バプテストキリスト教会、梁瀬歌子、山口正夫、山口吉昭、山下恵一、(有)三電、匿名、吉村佐津紀、吉村敏彦

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、秋永侑美、井手伸昌、重症者ホームひさやま家族会、久山療育園献金箱

【施設】

一般献金

井上清美、大原信幸、金丸尚美、(株)柳原産業、川名幸重、木元克治、草場年子、後藤香織、城里生英夫、新藤賢恵、佐知子、田上洋子、田川賢二、田中節子・由美、鶴恵美、手塚敬子、花原章

二、深見俊江、松尾国利、松尾貴光、間部和子、森永清治、山本三佳

献品

青木常郎(保冷剤他)、猪城古(エプロン他)、植野俊司(大根)、大坪敬子(タオル)、粕屋理容組合(タオル)、(株)ロジテム九州(みかん)、草場貴子(はがき)、小嶋優子(タオル他)、鮫島経男(タオル)、自由ヶ丘キリスト教会(タオル)、西南女学院中学校・高等学校生徒会宗教学部(タオル)、野田正紀(カメラ三脚)、林香代美(トイレットペーパー)、原尚美(毛糸の帽子)、古後明朗(食食用エプロン)、ミットレーベン・ネットワーク(食食用エプロン他)、安井洋子(タオルエプロン他)、安河内智幸(イチゴジャム)、横溝愛子(タオル)、吉富恵知子・戸島梢子(食食用エプロン)

献金申込先

- 《郵送》
社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会
〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
久山療育園重症児者医療療育センター内
☎ (092) 976-2281 (代)
- 《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】
名義：バプテスト心身障害者を守る会
- 《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普71888
名義：バプテスト心身障害児(者)を守る会
理事長 宮崎信義
- 《ホームページ》
当センターホームページから、クレジットカードによる寄付が可能となります。「寄付金のお願い」より開いて下さい。また、郵便局振込用紙もパソコン画面よりダウンロードすることができますので御利用下さい。
個人、会社共に免税の対象になります。
メール：hisayama@hisayama-smid.jp

メモ帳

【10月】

- ▽8日 誕生会
- ▽11日 2023年度西日本施設長会議準備会議・4月入職者6か月経過後オリエンテーション
- ▽13日 全国重症心身障害児者施設職員研修会業養士・調理師コース(オンライン)
- ▽14日 日中活動支援協議会(第24回)ばさ静岡Zoom開催
- ▽15日～17日 認定看護師研修
- ▽26日～27日 秋の集い
- ▽29日 施設職員研修 看護管理コース
- ▽30日 認定看護師研修
- ▽31日 オンライン交流会(古賀バプテスト教会)

【11月】

- ▽2日 福岡特別支援学校・修学旅行・看護協会研修
- ▽11日 5年在職職員・交流会
- ▽12日 医薬品安全管理(Web研修)
- ▽12日～14日 認定看護師研修
- ▽16日 10年在職職員・交流会
- ▽19日 第42回日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会総会
- ▽22日 2021年度第4回理事会
- ▽24日～25日 介護老人保健施設職員及び、医療機関(病院・診療所)職員を対象とする重症心身障がい児(者)の医療的ケア研修
- ▽25日 社会福祉法人指導監査及び実地指導
- ▽26日 令和3年度病院立入検査・サービス管理責任者研修
- ▽28日 令和3年度全国重症心身障害児者施設職員研修「医療技術管理コース」(Zoom)
- ▽29日～30日 全館消防設備点検

【12月】

- ▽2日 県重症心身障害施設協議会
- ▽3日 誕生会
- ▽13日 西日本協議会2023実行委員会
- ▽15日 入所クリスマス
- ▽16日 園クリスマス
- ▽17日～23日 通所クリスマス
- ▽18日～19日 認定看護師研修
- ▽24日 福岡特別支援学校 2学期終業式

職員の異動

(2021/10/1～12/31)

【採用】

- ▽木下 晶子(作業療法士) 10/1付
- ▽鍋山 泰三(事務部長代理) 12/1付
- ▽吉田 沙織(理学療法士) 12/1付
- ▽馬原 哲治(事務局担当課長) 10/31付
- ▽中山 裕子(栄養課長) 11/30付
- ▽浦田 秀文(介護福祉士) 12/31付
- ▽宗 ころ(看護師) 12/31付
- ▽石井 佳代(歯科衛生士) 12/31付

ボランティアだより

「オンラインでつながりました」

今回、コロナ禍ならではの新しい交流として、オンライン交流を行いました。パソコンでのテレビ会議の要領です。



1回目は、10月末。まだまだ機械に不慣れなため、まずは職員の所属する古賀教会にお願いし、何度かの打ち合わせの上、本番当日を迎えました。センターでは、利用者4名と職員でパソコンの前に座り、その様子をプロジェクトでディールのみんなに見てもらいました。教会の方では、初めての試みにも拘わらず

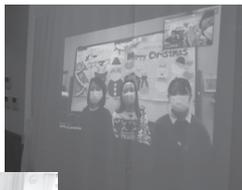
たくさんの方にお集まり頂き、ハンドチャイムの演奏を聴かせて頂いたりして・・・。30分程度の交流でしたが、なかなか会えない現状で、顔を見ながらお話が出来たことに利用者もとても喜ばれていました。

また、まだセンターに来られたことがない方々にもセンター内の様子を少し見て頂けて、つながりを感じることができました。

2回目は、12月。西南学院大学のボランティアセンターと交流することができました。ボランティアセンターの学生さんが、利用者のために、とクリスマスプレゼントを用意してくれたのです。とてもかわいいクリスマスカード特大サイズでした。画面上ではありましたが、作ってくれた方々に感謝の気持ちを伝えることができ、良かったです。

お互いに質問しあう時間では、緊張していた学生さんたちの表情も緩んだように見えました。これからもたくさんの方々と、交流の時間を持てたらと思います。参加していただいた皆様、ありがとうございました。

(ボランティア委員会 陣内晶子)



【専用メールアドレス】

ボランティアに関するお問い合わせの方法として、専用メールがございます。
「興味があるけど、どんなことするのか心配...」
「行ってみたいけど、手続きは？」など、いつでもご質問いただけるようになっています。
お気軽にご利用ください。
bora@hisayama-smid.jp

歩 行 器

2021年度の久山療育園クリスマス会は、12月15日の「入所クリスマス」から16日「園クリスマス」、17日～23日の「通所クリスマス」となり、イエス様の誕生をお祝いする喜びの時間を過ごすことができました。特に「園クリスマス」の感謝礼拝では昨年に続き新型コロナウイルス感染症予防のため出席数を制限し、小規模な礼拝となりましたが、讚美と聖書朗読、宮崎理事長の「御子によって救われるために」と題する説教によりイエス様降誕の喜びを深く知ることができました。

「入所クリスマス」ではディールで礼拝をした後、入所の皆さんと共に美味しいクリスマス・ランチを摂り、職員によるクリスマス・ステージの演芸を見て楽しい時間を過ごしました。

昨年は8月からコロナ感染症の第5波が始まり、園ではご家族との面会が再び中止されました。その後、10月中旬からは徐々にコロナ感染症も収まり、ご家族との面会が再開され、短時間ではありますが、アクリル板越しの面会、11月からはアクリル板を外し、マスク、手袋着用での面会、更に園庭での

短時間での散歩もできるようになりました。
アクリル板無しでの面会再開では、久しぶりに見る我が子に対し、ご両親のなんとも言えない嬉しそうな笑顔が見られ、立ち会う職員も目頭が熱くなる思いがしました。

12月17日では福岡市の新規コロナ感染症患者が0名と劇的な減少で、そのまま新型コロナウイルスの収束が進めばと願うばかりでしたが、全世界では新型コロナウイルス・オミクロン株が拡大し、年明けには日本でもコロナ感染症の第6波が発生してしまい、気が気ではありません。入所の方々と利用者の方々がコロナ禍の中でも生き抜いていただけるよう日々祈り、業務にあたっています。

(H・N)